

SUITA 中核市 2020▶2023

中核市となり3年がたちました

進化したまちの姿

市は令和2年4月に中核市へ移行。福祉、都市計画など、暮らしに関わる幅広い分野で事務権限が広がり、迅速で質の高い行政サービスの提供を主体的に進めています。保健衛生分野では保健所を設置し、市がこれまで実施してきた事業と保健所の専門的な業務を一体的に実施できるようになりました。中核市となり飛躍した今の姿を、さまざまな場面からピックアップしてお伝えします。

企画財政室 (TEL)6384・1632 (FAX)6368・7343

都市計画 分野

地域の特性を活かしたまちなみに

市独自の屋外広告物条例を制定し、屋外広告物の設置許可の際には事前協議を行う制度を新たに導入しました。

市内で新たな商業施設も誕生していますが、事前協議でのきめ細やかな誘導により、地域の景観特性に配慮した屋外広告物の設置が進められています。



窓面に広告物を設置せず、ガラスの透過性を活かし、建物内を効果的に魅せることで、商業施設としてのにぎわいの中にも品格のあるまちなみを形成しています。(一例)

環境 分野

廃棄物処理の 立ち入り件数が増加

排出事業者や産業廃棄物処理業者に対し、中核市移行前よりも多く立ち入り検査や指導を行い、不法投棄など不適正な処理の未然防止に取り組んでいます。



市職員による解体現場への立ち入り検査

福祉 分野

手続きが スピーディーに

府と市で分担していたサービスを市が一体的に行うことで、手続きの迅速化や利便性の向上が図られています。

例えば

母子・父子・寡婦福祉資金の貸し付けなど
●貸し付けの申請から交付までの事務期間
約2~3か月⇒約1か月^{短縮}

●子の進学に係る学費や入学金のための資金の貸付審査を受験前に受けられる、予約申請の受け付けを開始しました。進学先が決定したら速やかに資金の交付を受けられ、利便性が向上しています。

保健衛生 分野

市保健所では最前線で、新型コロナウイルス感染症に対応

中核市移行と時を同じくして、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるいました。保健所を有する中核市の責務として、最前線でコロナ対応を続けています。

- ドライブスルー方式によるPCR検査
- 検体回収センターの実施
- 行政検査会場として保健所内にモバイルクリニックを設置など、状況に応じて市独自の事業を変遷させながら検査体制を拡充し、コロナ対応に奮闘してきました。



ドライブスルー方式によるPCR検査の様子

さらに、保健所が市の組織となったことで、
●感染状況を直接把握でき、陽性者対応に他部署からの応援職員をタイムリーに派遣する
●消防との連携を一層強化し、症状急変時の入院調整などにも最善を尽くせる
など、全庁を挙げてコロナ対応に取り組むことができています。

新型コロナウイルス感染症に感染した市民から、保健所職員の対応などに対し、約800通にも及ぶ心温まる感謝の手紙が寄せられています。「家族が不在で独りでしたので心強かったです」「おかげさまで元気になり、元の生活に戻っています」「みなさまお身体に気を付けてがんばってください」といった一つ一つの言葉が、職員の励みになっています。



動物との共生も進んでいます

保護犬・猫の譲渡を推進するほか、動物愛護の啓発を進めています。

所有者不明猫に関する相談については、地域猫活動支援事業として対応を強化しています。事業の詳細は市ホームページへ。



実際に保護した子猫たち



市ホームページ



地域猫活動啓発ポスター